

○新しい年を迎えて

2018年、明けまして、おめでとうございます。昨年、突然の解散、総選挙。無所属で立候補という苦渋の選択の中で、皆さんに力強く支えていただき、当選ができました。改めて心から深く感謝申し上げます。

新年は、1月22日から通常国会が始まります。民進党は、残念なことに、3つに分かれてしまいました。参議院議員だけになってしまった民進党とは、私を含め無所属で当選を果たした衆議院議員13人が衆議院会派「無所属の会」を名乗り連携をしていきます。立憲民主党は、多くの選挙区で希望の党公認の候補者と戦ったこともあり、今すぐに、希望の党と連携をとることに抵抗があります。しかし、少なくとも、この通常国会では、一強の自民党と対峙していく基盤を作ろうと、民進党が真ん中に入って立憲民主党と希望の党にそれぞれ声をかけ、3党共通の会派を作ろうと提案しています。今後の統一地方選挙や参議院議員選挙では、野党勢力が十分な選挙協力をし、国民の支持をしっかりと得られるような国会運営を実現することだと、思っています。

○国会の争点

この国会では、憲法、経済財政、北朝鮮を含む防衛などの国家の基本的な案件とともに、森友、加計問題に続く、スパコン詐欺疑惑やリニアの工事談合問題など、補助金の不正支出や税金の無駄遣いにつながる問題を追及していくこととなります。

戦後の日本の、平和国家としての専守防衛規範を根本的に見直し、集団的自衛権を合憲化しようとする安倍総理の意図に対して、私達は、断固戦います。

日本銀行の前例のない国債の買い入れが、政府の借金（国債発行）の膨張に対する市場の歯止めを機能不全にしています。アメリカやヨーロッパなどで出口戦略が実施され始める中で、日本だけが前例のない量的緩和政策をこれ以上続ければ、金融だけでなく国家財政破綻のリスクが大きくなります。日銀の政策転換で出口に向かうことを求めます。

防衛予算は、ここ5年余りで5000億円増加して5兆2000億円弱になってきました。北朝鮮、中国等の緊迫した周辺状況が、国民の間に自衛隊の武器の拡充に理解を示しやすいムードを醸し出しています。

一方で、イーグリス艦に続くイーグリス・アショア、F35戦闘機、オスプレイやグローバルホークなどアメリカからの高額な武器調達が目立っています。資金がアメリカに流れる構造だけでなく、武力の中身がアメリカと一体化していく状況に、少し立ち止まって「これで本当にいいのか？」と検証する必要があります。

補助金不正支出や談合は、検察の捜査が始まっています。過去の検察の捜査では、時の政権からの圧力や忖度を取りざたされ問題がウヤムヤにされることがありました。それを跳ね返す力は、マスコミ、世論、そして、国会での追及です。その為にも、今、出来る限りの野党の連携が必要です。枝野、玉木、大塚という3人の代表が、小異を捨てて大同につき、野党連携という国会の確かな体制が作れるように、私も精一杯の汗を流します。

○愛農学園農業高校との出会い

伊賀の旧青山町に、「愛農学園」という私立の農業高等学校があります。生徒60人余りの小さな高等学校ですが、全国から生徒が集まり、全寮制で、鶏、豚、牛の飼育、無農薬有機栽培の野菜など特色のある農業実習体験を基本とした教育環境を作り出しています。三重県は田川県政時代に、農業後継者の育成を期待して補助金を用意し、この学校の誘致を進めました。一年生は、鶏の解体実習というショッキングな体験から始まります。毎日の豊かな食生活に70%の自家製食材が使われることで、「命を育て、それを食べることを意識して、農業の原点としたい。」という校長先生の言葉に、私も納得です。ここで鍛えられた卒業生が2000人ほど。大学や専門学校に進学する人々が半数、最終的に、農林業に従事している人々が60%以上で、全国に拠点を持ちながら、確かな農業の担い手として活躍していると言います。

世界市場で、日本の食文化への再評価とともに農業製品の海外輸出の可否が将来の農業の復活を決定づけると言われ始めました。人口減少に危機感を募らせる地方の再生には、農業問題に本気で立ち向かう国民としての気概も必要だと思います。このような課題を考える最中に会った「愛農学園」。日本の将来を考える一つの重要なカギが、その教育の基本に秘められているように思われます。